

小笠原島紀事

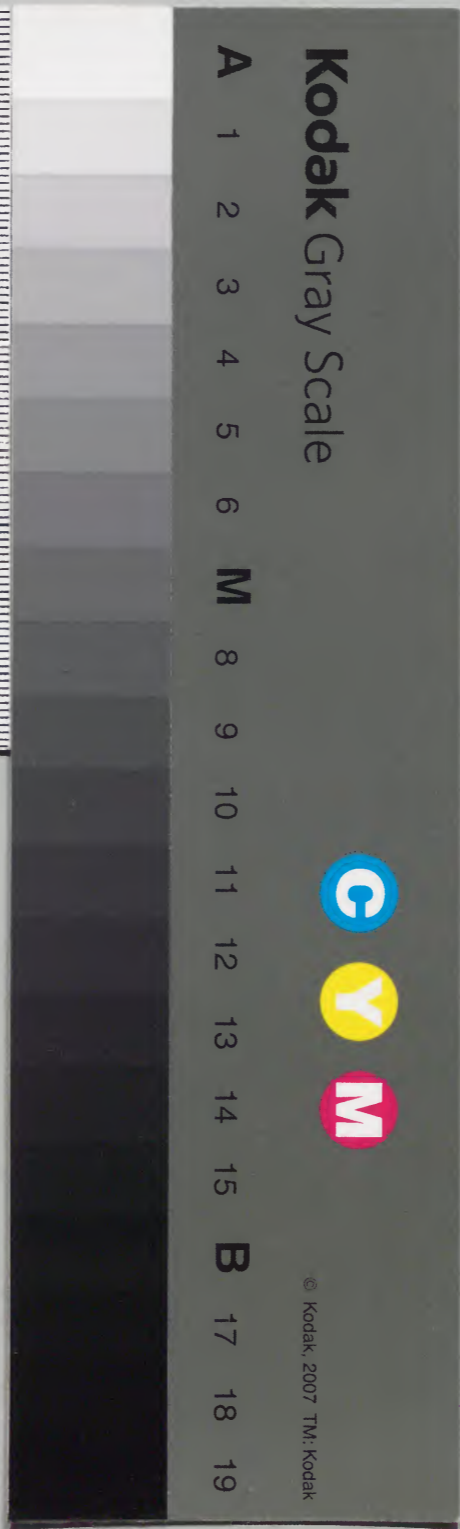
和一七九三號

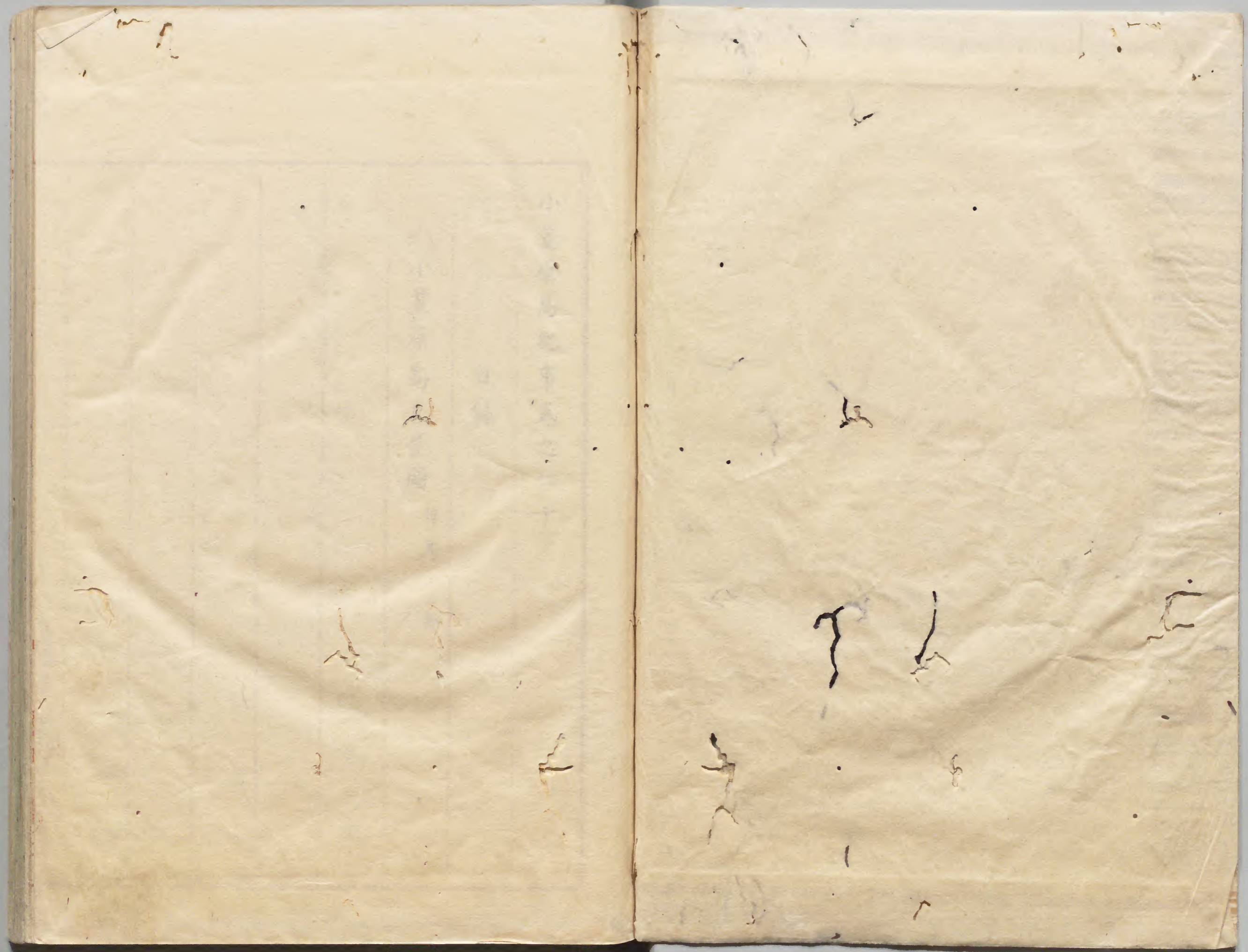
真景圖 母島之部

第一冊  
第二冊  
第三冊

庫	文	閣	内
二七一函	三三	四一六五	和
三架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 14165
冊數	33 ( 22 )
函號	271 69





小笠原島紀事卷之二十

目錄

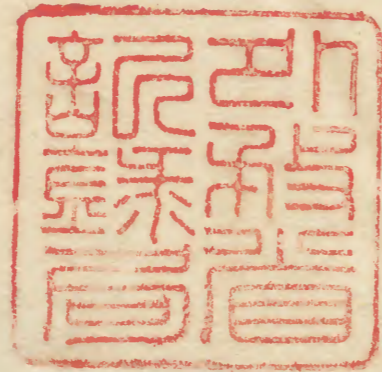
○小笠原島真景圖

母島ノ部

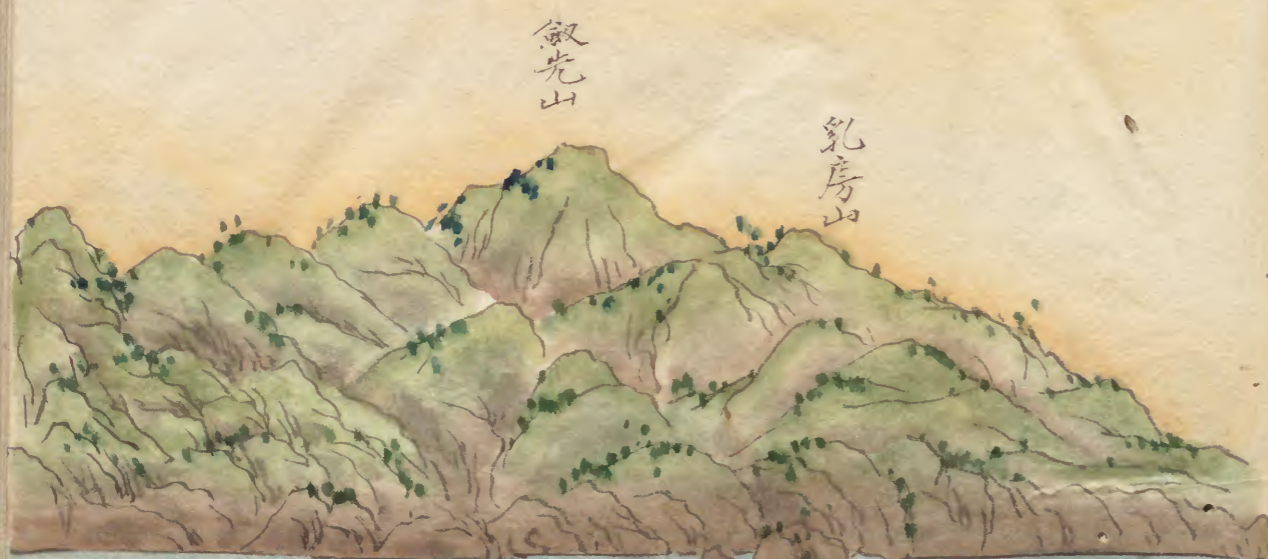
小笠原島

小笠原嶋真景圖

母嶋之部



夕飛



飯光山

乳房山

獅子谷



小富士山

沖村港

南浦

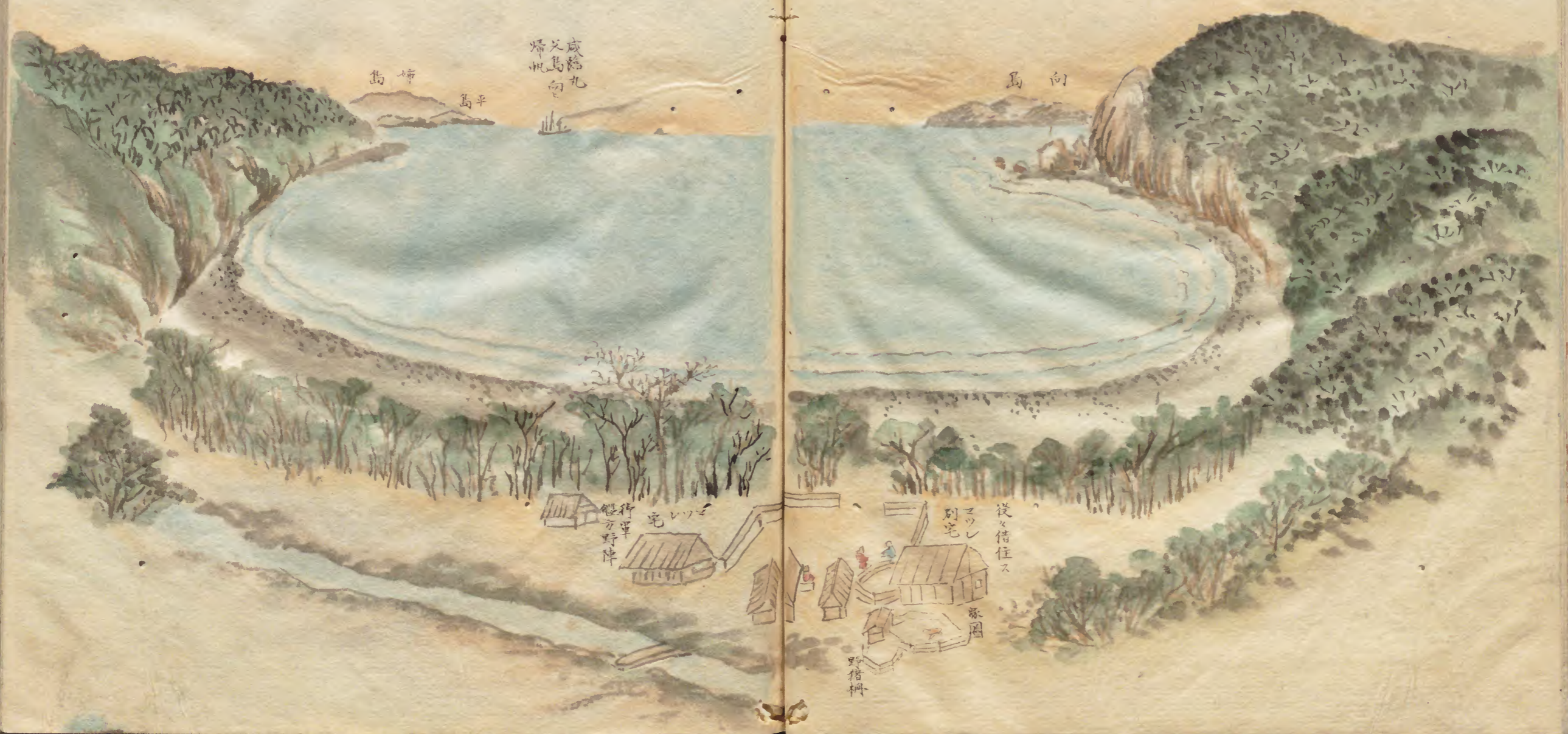
二月十日文島より  
母島へ渡海威路丸  
船中より全島西南  
山面を望み姉妹  
諸島凡工図外  
あり

其二

能  
岩  
へ  
り  
紀  
伊  
鬼  
岩  
と  
巧



母島沖村港圖  
補



母島沖村マツシ持  
畑地の図

海

○印の辺へ  
朝陽丸の  
水夫一人  
埋葬せり

別宅上陸の後々  
此家と貸借を

漢人  
マツシ宅  
田舎所

田舎所

田舎所

芋畑

芋畑

芋畑

芋畑

芋畑

葱畑

芋畑

畑

水草畑

北

西





母島沖村  
おのく  
夷女  
舞躍  
之図



母島の内

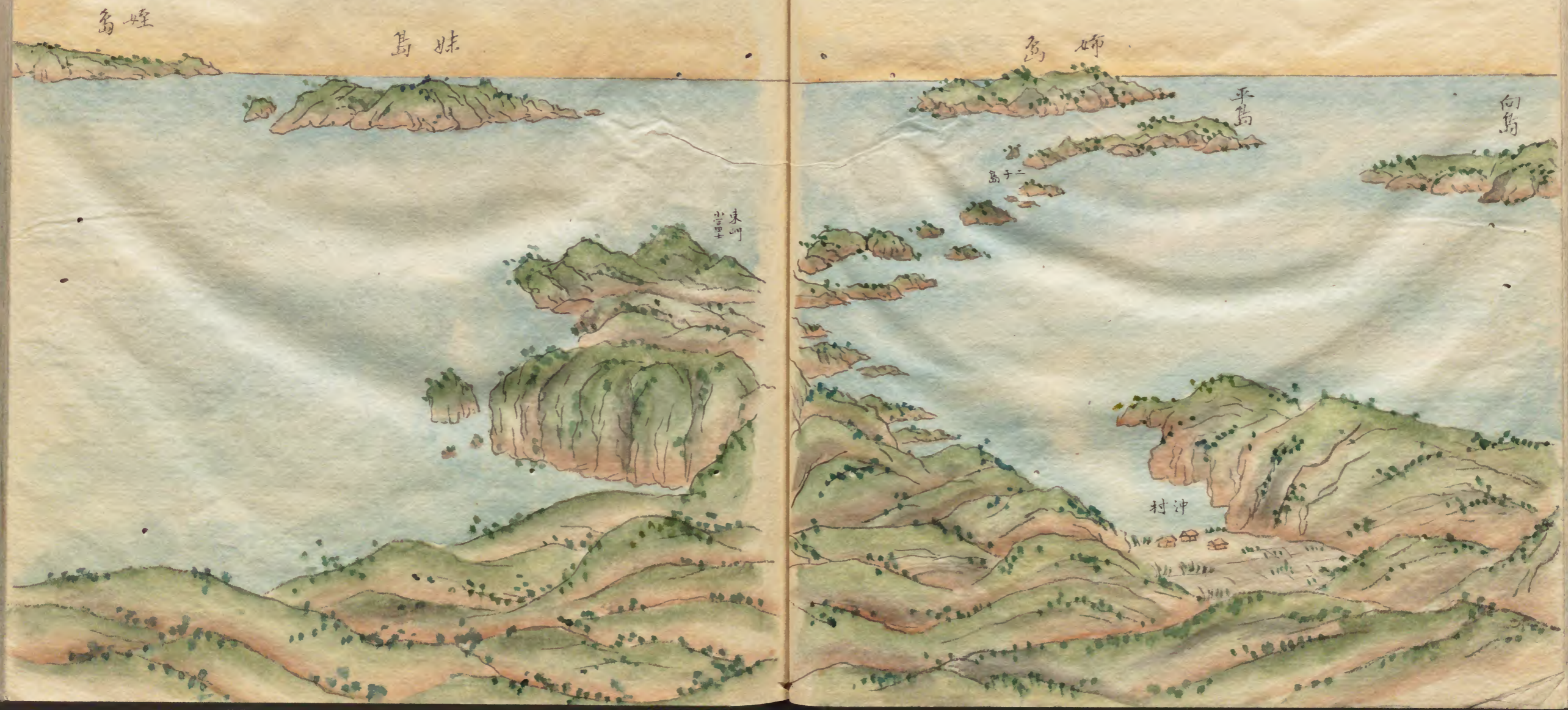
沖村港湾中  
西の方較々岸より  
碇の方と観望す

下鴨  
豊頭島

滝晴日  
縁け生  
水濁り



母島之内  
沖村の北乳房山より  
南望の図



初深浦  
海上  
望圖



母場乃内  
沖村の北  
乳房守  
東洋

此山上  
藤九郎  
島の東  
徳子  
捕少  
茂九郎  
天信翁

妹

煙島



其二  
同上  
左の方と見





母駕の内  
北港

二月廿二日 巡見の  
節 全權初の兩夜  
此所 露宿を  
以迄 野指多し 帰途  
一日 四頭と獲り





母島の内  
東港

古名片港と云  
波荒と云  
舟



母鷲之内  
西港の景



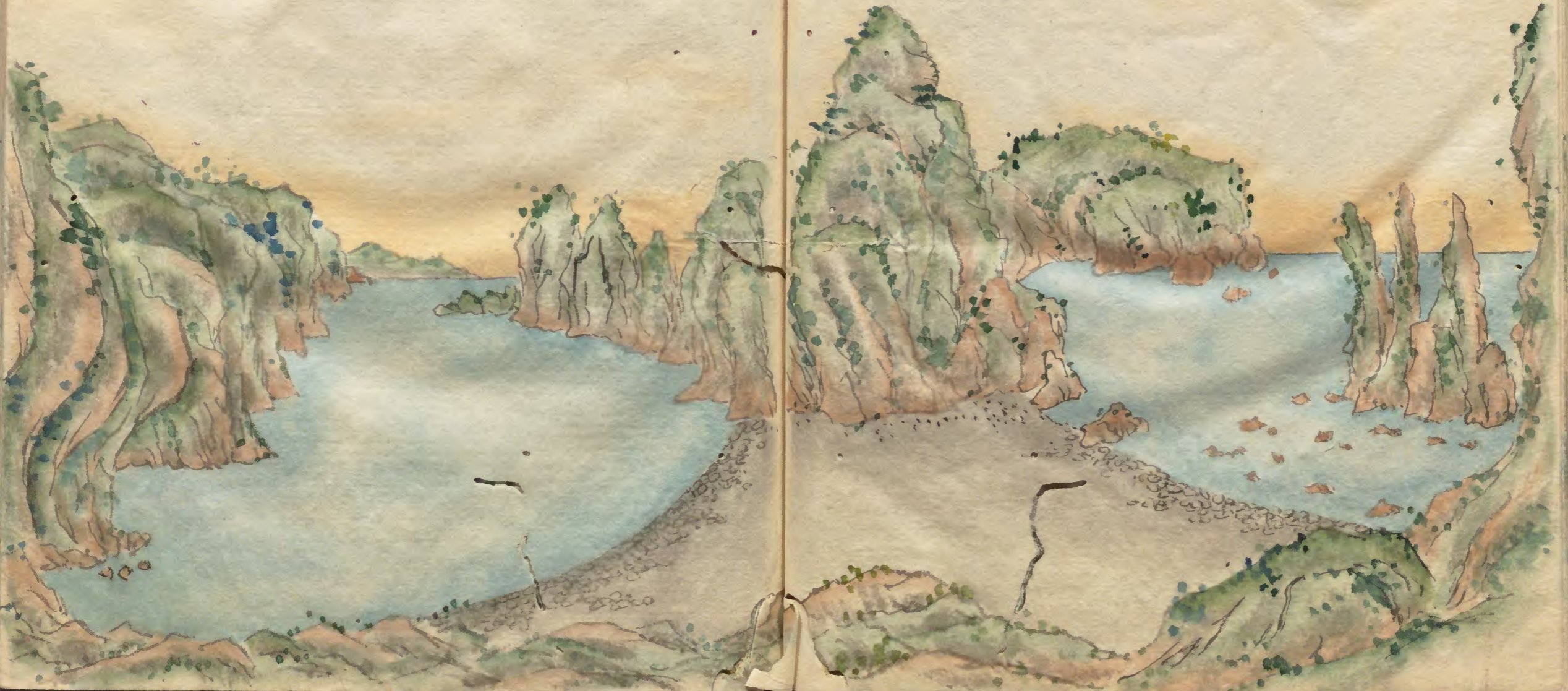


母島の内  
 東港の岬  
 石門行  
 高十丈幅七丈  
 何と危し猛波を  
 小舟寄難し



母島之内

二月十九日雨全權  
巡見と名南浦と  
北の方着船と一か



母嶋の内

南浦の富士山  
頂より西北の  
方と見え



向島

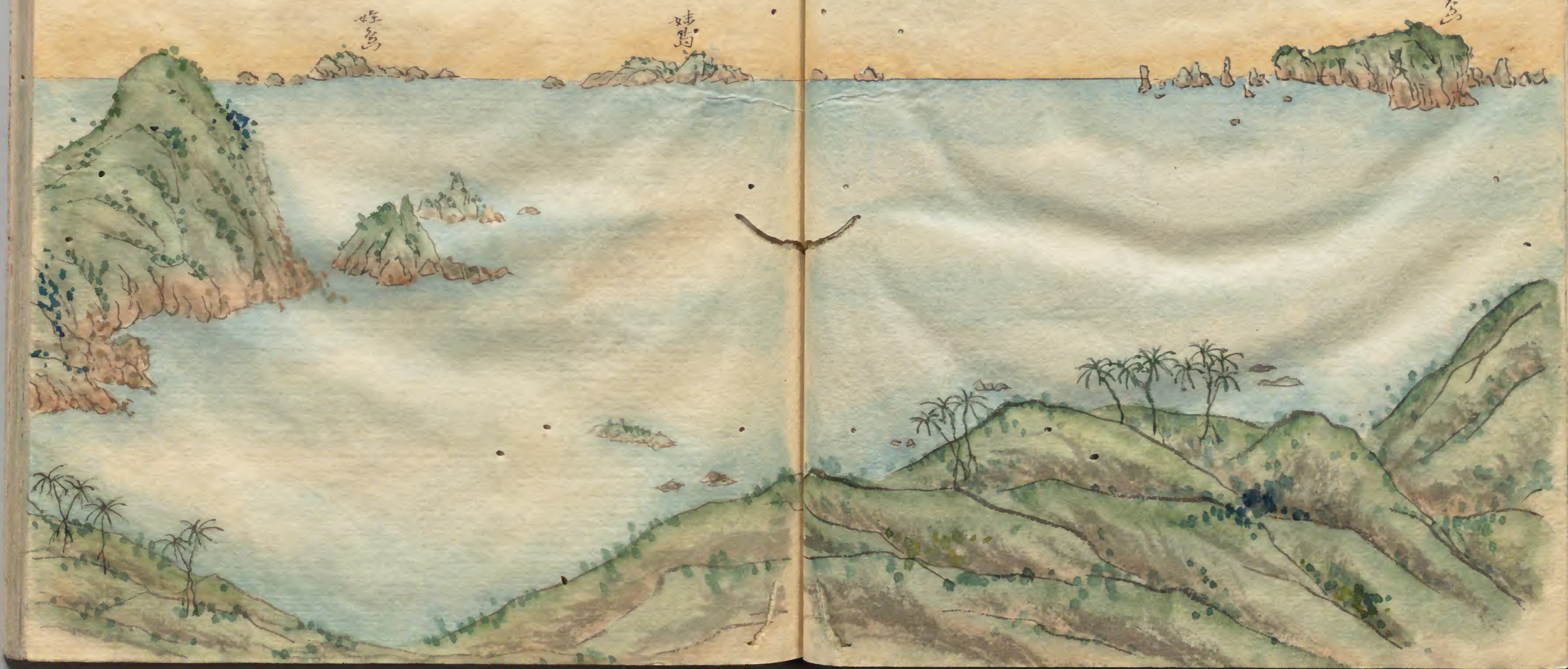
母島之内

二月廿日 巡見の節  
平島西の方山上より  
東南方面より姉妹  
諸島と見ゆ

姉島

妹島

妹島



母島 屬 鴻 平 島  
北の方 山上より 東北の方  
母島と眺望す  
衆島 周圍より 湾中の  
ゆゑ 鮫魚多く 尾跡を  
潮波より 音 數里の外  
響く 其 聲 變 中の 潮と  
見ると 似たり



其二





母島  
屬鴻の内

向島

丑寅の方  
向島より  
望む



姉島  
平島より  
の方山より  
未の方より  
向て見



妹島  
平島より  
の方山より  
懸の方より  
見え

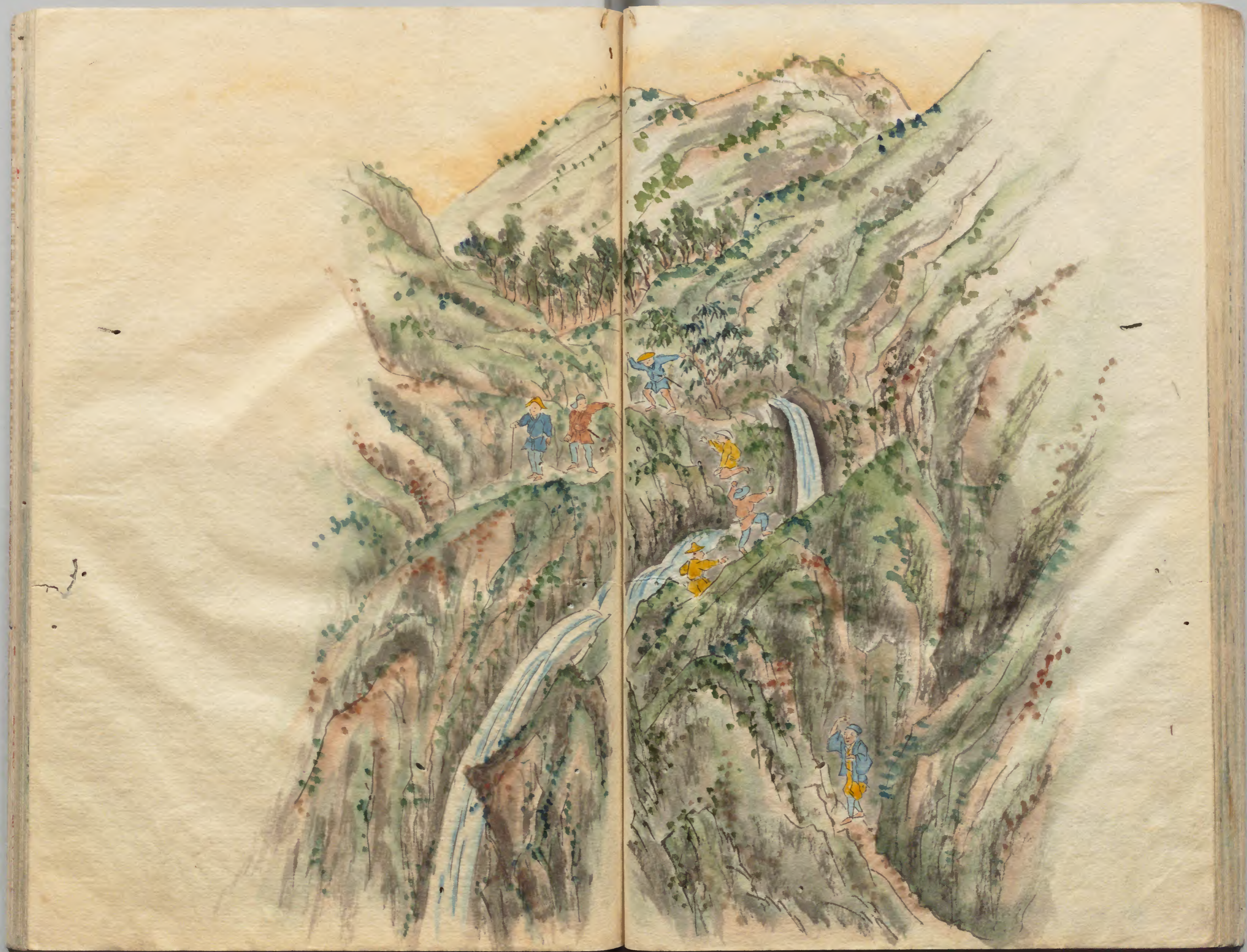


姪島  
同所より  
卯辰の方  
見え



兄島野陣  
濱北港等  
旅雨申  
露宿の作  
如此

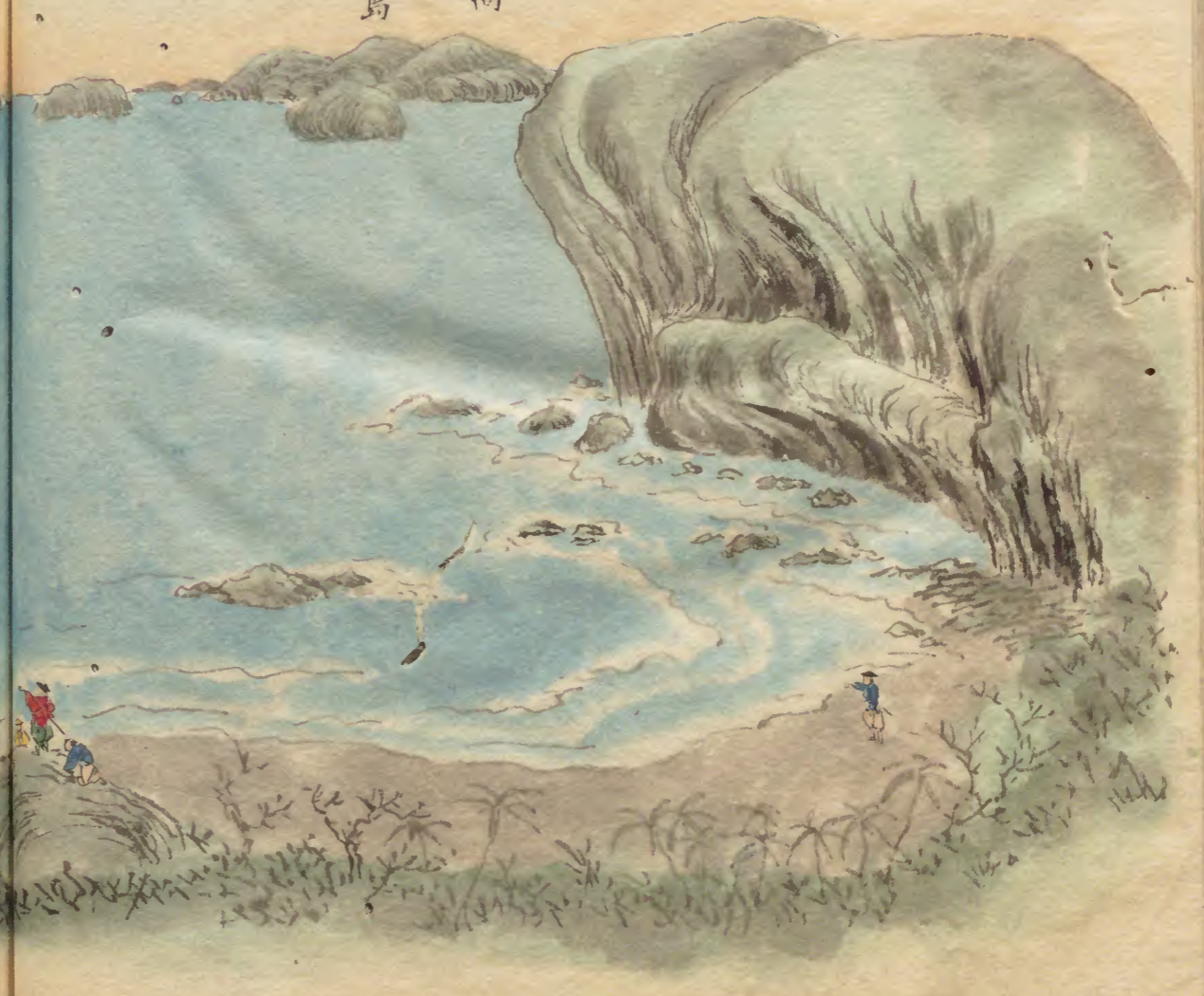




母島南浦之図  
補

島 姉

島 向



母島山上北望父鳴之圖

補

父 島



母鴻北村後之山上  
眺望之図  
補



母島北村港左方  
湾中眺望之図  
補



向寫山上眺望之圖  
補





母島鮫浦雨中  
、補  
鮫鮫圖



母鴻南子  
山上喫午飯  
補



母鷲乳房山上  
眺望之図補

島父



戊三月十日  
咸臨丸歸途洋中  
遇亞米利加鯨漁船  
圖補





云ハロト唱  
 皇國人呼ト蝸ノ足トワ  
 大与トハ葛拾河余ト以ハ



ヘシハムト唱  
皇國人呼々野芭蕉或野椰子  
以箱橘樹類一為拾間金乃八

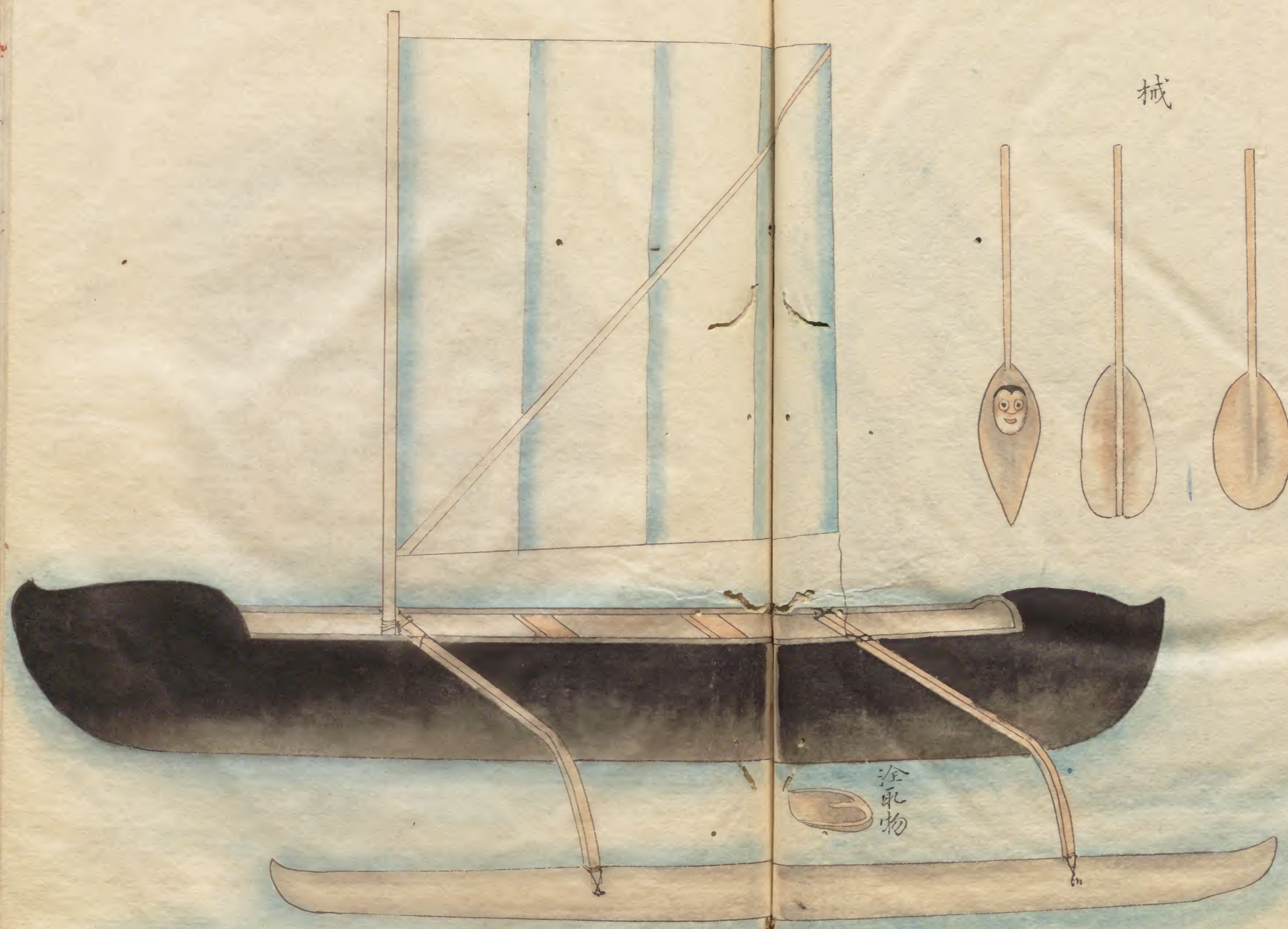
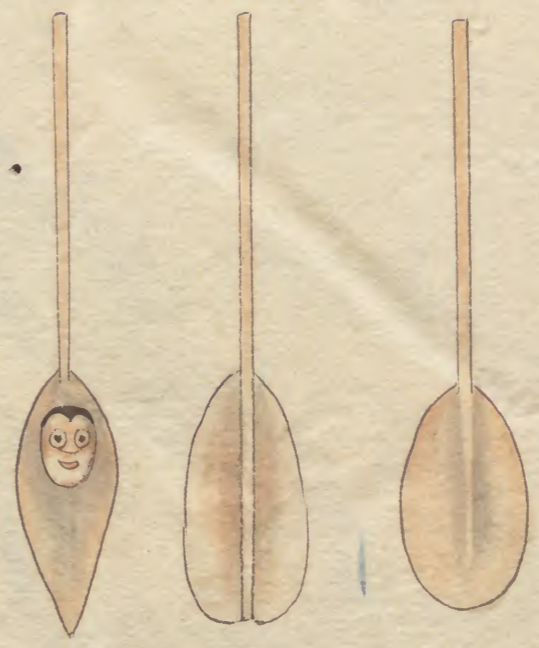
島中外国人の  
家屋の周囲に  
橘樹の葉を以て  
葺く



クヌー船之図

丸木を削ぎて造る島民  
皆こゝろを来りて漁籠を風の  
折柄を母島へも注ぎてをりて

楫



塗取物





クヌー船子装ふ面、  
圖之一  
補

其二



文久元年辛酉有

命巡視小笠原嶋、創置官府、撫其住民、受其任者外、  
國奉行水野筑後守、与其僚屬、調役由井太左衛門  
調役並田邊太一、書物方富田達三、須藤誠一郎、定  
役元締佐小花作之助、定役益田鷹之助、同心招浪  
權之丞目付服部歸一、与其僚屬、徒目付佐藤直三  
郎、招本三之丞、小入目付林和一郎、其他勘定深山  
守平、太權普請役上村升善、平司其資財兼測山川

夕  
江川太郎左衛門手附中瀆方次郎長崎通詞堀一  
郎通其言詞官醫小野岑菴大垣藩醫宮本元道掌  
其醫療兼探物産繪景物而所坐咸臨官船小野友  
五郎統其指揮塚本桓輔招岡磐吉豐田港西川倍  
太郎按其針路柴弘吉淺羽甲次郎鈴木録之助令  
其運用杉浦金次郎喰代和三郎高橋榮司運其漁  
機近藤熊吉常其銃礮矢野澤次郎吉轄其用費外  
有水夫從僕若干人以冬十二月三日發都至翌壬

戌春三月廿七日還為程千幾百里為日百十有六  
日小笠原島真景圖成乃附題姓名如右

小笠原

[Faint vertical text in columns, likely bleed-through from the reverse side]

若き世に  
山ありて  
南の山ありて  
北の山ありて  
東の山ありて  
西の山ありて  
南の山ありて  
北の山ありて  
東の山ありて  
西の山ありて  
南の山ありて  
北の山ありて  
東の山ありて  
西の山ありて



昔年九月廿五日  
拜見於此  
相別於南陽  
為山帖在  
口之系之時  
度者之知  
以何所好  
以學此  
形勢之

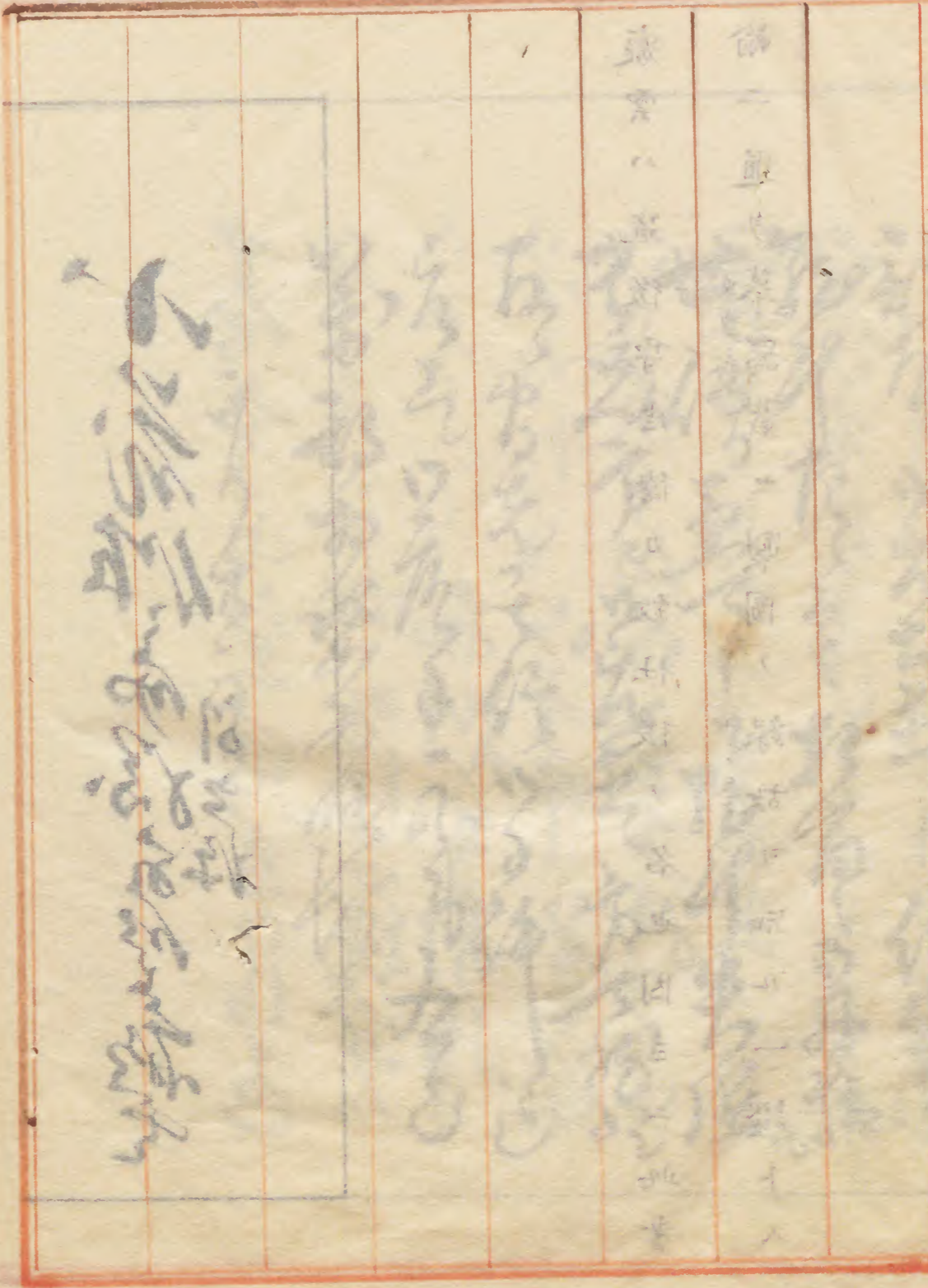
形如、以光也、其長、係、年、余、  
 知、才、た、る、を、お、り、る、は、  
 世、始、り、を、無、く、す、り、知、り、出、  
 光、之、下、に、は、る、を、方、に、  
 有、中、先、之、修、り、は、  
 有、る、に、は、る、を、  
 第、一、の、要、を、  
 平、り、を、  
 (Seal)

不、死、作、  
 引、  
 不、死、作、  
 引、

癡雲ハ筑後守忠徳カ致仕後ノ名也因ニ此書  
 翰ニ通リ摹寫載セ製圖ノ縁故ヲ知ル一證トス

卜  
 分  
 目





真景圖二本アル音コトハ既ニ凡例ニ云フ如シ原圖  
 一本ハ小花作助カ所藏ヲ以テ疾ク本省ニ摹寫  
 シ書庫ニ藏メラル其圖及又同人カ藏スル所ノ  
 再校圖ヲモ借り得テ對照スルニ総テハ大同小  
 異也ト雖モ原因ニ脱スルモノモ亦少カラズ因  
 テ畫圖外務權少録河野雪巖ニ議リ兩圖ヲ参考  
 シ其脱ヲ補ヒ此圖ヲ製リ寫字生中島政信ヲシ  
 テ摹寫サセシメ以テ紀事ノ卷末ニ附シ參考ノ

一端三備ノ

其

其

其

其

其

其

其



